

# 時評

佐藤 ささく

洋一 郎



富士山が、「世界文化遺産」に登録された。喜ばしい限りだが、一方では課題もありそうだ。

世界遺産は、民族や文化、世代を超えた世界の人のびとにとって「普遍的意義」を持つ遺産に与えられる、一種の榮譽である。遺産なのだから、静岡、山梨両県ばかりか、すべての当事者には、遺産の価値を後世に残すことが求められる。当然、イベントをやっておしまい、とごまかすことにはならない。

今回認められた富士山の普

遍的意義は、西洋の芸術家たちにもしばしば取り上げられ、「日本といえば富士山」というイメージを定着させている。このイメージを守り、世界に向けてさらに広めることが求められている。

富士山が西洋の芸術家にモチーフとして取り上げられたのは何もその外観の端正さだけにあるのではない。古くから信仰対象とされ、さまざまな文化的な活動によって、地域が一丸となって富士山とそ

## 富士山の世界文化遺産登録

### 普遍的な意義広めて

れにまつわる文化的な活動を守ってきたところに、西洋の芸術家たちも感動したのだ。その感動を世界に伝えることは、必ずしも容易ではない。なにしろ、少なくない西洋人の富士山に対する見方は、いまだ相変わらず、「フジヤマとゲイシャ」なのだから。

する無知、偏見がその背後にある。日本の文化や思想を正しく知ってもらうためにも、世界文化遺産としての富士山の価値を広く周知する取り組みが欠かせない。

した山が各地にある。富士山はランドマークとして、また象徴として、それほどまでに広く愛されてきたのである。最近では高層建築物などが増え、眺望が利かなくなってきた。め、「富士見」を実感することは少なくなったが、これを機に、もっといろいろな人びとのアイデアや地域に蓄積される知を集め、多くの人が「わが街、わが国の世界文化遺産」として実感を持てるような運動を巻き起こしてほしいと思う。そしてそれは、何よりも、地域にある知を吸い上げるボトムアップの仕組みが必要なのだと思う。

日本の文化、日本人の思想やものの見方は、西洋社会からはややもすると特異にみえることが多い。文字とおりの異文化だ。異文化に対するまなざしは、時として無知なるがゆえの差別と偏見に満ちたものとなる。捕鯨に対する的外れな攻撃にも、異文化に對

でも、あまり耳にすることはない。日本の遺産として登録されたのであるから、もっと日本各地の人びとを巻き込んだ取り組みが必要だ。静岡、山梨両県以外にも、「富士見」「富士見台」という地名があり、また讃岐富士、蝦夷富士など、富士の名を冠

（総合地球環境学研究所 副所長・教授）